

8月5日 ヘッドロック

高校に入った頃、友だちもできず孤独だった。同じクラスに野球部で腕っぷしの強い人気者がいた。なぜだかそいつが毎日のように私をからかう。今で言う「いじる」というやつか。いじられるたびに私はヘラヘラ、ふにゃふにゃと対応する。それを面白がってまたからかう。その繰り返しだった。

毎日そいつの顔を見るのが苦痛だった。かと言って助けてくれる友達もいない。ある日、ちよっかいを掛けてきたあいつに、たまらなくなつて飛びかかった。

あいつの頭を抱えて思いっきり締め付けてやった。教室が騒然となった。「愛川がヘッドロックしてる」

戦意喪失のあいつは「もうやめろや」と繰り返すが、私は無言で締め付けた。同じようにあいつにいじられてた奴らが息を呑む。全力を使い果たした私はガクガクと震えながらその場にへたり込んだ。あいつはバツが悪そうに教室から出ていった。

誰かが「愛川って怒らせたら怖いな」と言った。そして「愛川のヘッドロックすごかったな」と続けた。

プロレスを見ない私はその技を知らない。無我夢中で押さえつけた格好がたまたまヘッドロックに見えただけだった。

それから誰も私をいじらなくなった。でも、相変わらず、友達はできなかった。

